

## 第42回黒部川土砂管理協議会 議事録

### ●開催要件

○開催日時 平成29年5月25日（木） 10:00～11:20

○会場 入善まちなか交流施設うるおい館 2階 イベントホール

○出席者

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| ・堀内 康男 黒部市長             | ・中谷 仁 富山県農林水産部次長     |
| ・笹島 春人 入善町長             | ・水口 功 富山県土木部次長       |
| ・笹原 靖直 朝日町長             | ・上田 智之 関西電力(株)北陸電力部長 |
| ・梅木 洋一 富山森林管理署長         | ・伊藤 和久 北陸地方整備局河川部長   |
| ・長坂 雄一 富山県<br>生活環境文化部次長 | (座長)                 |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)電力流通事業本部

### ●議 事

- (1) 平成28年度追加の環境調査結果について
- (2) 平成29年度連携排砂計画（案）について
- (3) 平成29年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について
- (4) 平成29年度大粒径土砂の移動状況調査について
- (5) 第46回黒部川ダム排砂評価委員会評価について
- (6) 平成29年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応について
- (7) その他

### ●協議会の結果

- ・平成29年度連携排砂計画、平成29年度連携排砂に伴う環境調査計画については、了承する。
- ・連携排砂実施にあたっては、今回出された意見を踏まえて、適切に実施されたい。

- (1) 平成28年度追加の環境調査結果について
- (2) 平成29年度連携排砂計画(案)について
- (3) 平成29年度連携排砂に伴う環境調査計画(案)について
- (4) 平成29年度大粒径土砂の移動状況調査について
- (5) 第46回黒部川ダム排砂評価委員会評価について

## 座長

それでは、これまで報告のありました議題につきまして、何かご意見、ご質問等がございますか。

## A委員

2点あるのですが、まず1点目は、今年の出し平ダムの目標排砂量が9万m<sup>3</sup>ということで、ここ数年の中では少ない方ですが、この要因を説明できますか。

## 事務局

ただいまご質問いただきました件ですが、少なかった要因としては、昨年の排砂が終了した7月以降、今年の5月までの間で、あまり大きな出水がなかったというのが最大の要因と思っております。

昨年の6月1日以降の最大流量は排砂を実施したときの流量が最大で、それ以降、大きな出水がなかったということから、今年の目標排砂量が少なくなったと考えております。

## A委員

大きな出水が少なかったということは当然要因の1つなのでしょうけれども、出し平ダム上流部にある不帰谷との合流地点に土砂堆積があって、湛水している状況もあったのですが、それが出し平ダムまで移動するといったことに影響があると思いませんか。

## 事務局

不帰谷から流出した土砂が洪水等で運ばれて流下する可能性はあると思っております。事実、今までもあったものと思っておりますが、昨年はそれらの量を動かすだけの洪水、出水がなかったということから、今年に限っては、それらもあまり動いていないものだというふうに考えております。

## A委員

もう1点は、「宇奈月ダム流入SS成分の流下方策について」で、常用洪水吐ゲートを開けるということですが、これは通年においてやるということですか。

## 事務局

今のご質問についてですが、このSS成分の流下方策については、年間を通して試行することを考えているところであります。

## A委員

これまでの細砂通過放流は、6月から8月までの3カ月の期間における集中豪雨対策などで、濁りの多い場合に行うということでしたよね。

## 事務局

はい、そのとおりです。

## A委員

そうすると、今度は6月から8月までの3カ月以外で、濁りの原因となるSS成分をダムに入って来る度に通年流すと。これは何かわかりやすい名前をつけてもらわないと、大きな濁りが入ってきて、例えば9月とか10月に常用洪水吐ゲートを開けて流したときに、かなり大きな濁りになる可能性もありますよね。そのときに、こういう操作をやったから今濁っていますというようなことがある程度理解してもらえないと。

場合によっては、観光シーズンとかに秋雨前線の影響などによる洪水が来たときにこのゲートを開けたらかなり大きな濁りになる可能性がある。我々としては、そのときに説明できるように、今タイトルに書いてあるような言葉ではなかなかイメージがつかないから、何かネーミングしてもらわないといけないのかなと思いますが、いかがですか。

## 事務局

ご指摘のとおり、このタイトルのままでの説明ではイメージがつきにくいと思います。今現在、案は持ってはいないのですが、今後検討しまして、わかりやすいネーミングを考えていきたいと思っています。

## A委員

初めて3カ月の排砂期間外でこういう対策をとるということなので、私は基本的にはいいことだと思うのですが、内水面とか海面とか関係の方々に説明できるような言葉が何かないと、「すごく水が濁っている」と言われたときに、わかりやすい説明できる必要があると思います。

## 座長

それ以外にご意見、ご質問等ございますか。

## **B 委員**

大粒径土砂の移動状況調査が3年目で、最終年度だというような話がございました。

これまでも再三申し上げていたわけでありますが、昨年も着色した礫を活用されたということで、今回はそれではなくて、発信器付きのものを30個まで増やして実施されるということでの最終年ということでありましてけれども、大粒径土砂の移動の状況というのは、ここで確実に把握できるという判断で最終年というふうにされているのかどうなのか。そこを少しお聞かせいただきたいと思います。

## **事務局**

今年度の大粒径土砂の移動状況調査の計画については、昨年度の調査においてデータが不足している箇所を中心に考えております。

従来のデータと、今年度のデータを合わせて検討すれば、一定の方向性が出るのではないかと考えております。

## **B 委員**

その方向性が出た後の対応策も検討しておられると思いますが、もしございましたらお聞かせいただければと思います。

## **事務局**

今年、調査の最終年ということになります。昨年度と今年度の調査結果を踏まえて、対応策についても検討していきたいと考えております。

現時点においては、具体的な案はまだ持ち合わせてはおりません。

## **座 長**

よろしいでしょうか。

## **B 委員**

はい。

## **座 長**

そのほか、ご意見、ご質問等ございますか。

## **C 委員**

確認ですが、まず資料-1の8ページに宇奈月ダムの堆砂形状が記載してありまして、右側の堆積土砂量の表には、昨年の7月排砂後、プラス10万 $m^3$ になっているというところですが、要はこの10万 $m^3$ が今年も出る可能性がある、という理解でよろしいのでしょうか。

## 事務局

8ページでお示ししている資料は、昨年7月排砂後から今年5月の測量を重ね合わせたものです。

土砂が流れやすい状態になっているということを考えていきますと、この10万 $m^3$ が全て流れるかどうかというのはわからないところでありますけども、流れていく可能性はあると考えております。

## 座長

よろしいでしょうか。

## C委員

また後ほど。

## 座長

そのほか、ご意見、ご質問等ございますか。

## D委員

わかれば教えていただきたいのですが、宇奈月ダム流入SS成分の流下方策は画期的だと思って聞かせていただいたのですが、135 $m^3/s$ の放流量に達するというのは年間、例えば昨年度ですとか、どのぐらいの頻度で発生するのかということがわかれば教えていただきたいのですが。

## 事務局

宇奈月ダム流入SS成分の流下方策ですが、6月から8月の間を除いたほかの期間で見たときに、ここ5年ぐらいの水の出方や流れ方から考えて、概ね年間2回から3回ぐらい発生するのではないかと考えております。

## 座長

そのほか、ご意見、ご質問等ございますか。

## C委員

宇奈月ダム流入SS成分の流下方策についての2ページに記載されているとおり、常用洪水吐ゲートから出していきましようということですが、細かい成分がここまで上がってくるのかどうかというのは、正直なところよくわからないのですが、4ページに記載の効果を見ましても、ごくわずか、非常に小さい数字なのですが、これは、例えば水位低下用ゲートを使うとかほかの工夫というのは難しいから、今はこの常用洪水吐ゲートから出しますということになっているのでしょうか。

## **事務局**

常用洪水吐ゲートを用いることについては、ゲートの操作可能範囲が一番大きく設定されていることから、操作の観点でまず考えたものになります。

また、水がダム湖へ入ってくると、ダムに衝突することによって細粒分がぐっと巻き上がります。その点も考えて常用洪水吐ゲートということを設定しておりますが、何分にも今年からの試行ですので、いろいろな知見を踏まえまして今後も検討していくことになると思います。まずはこのような形で進めていきたいと考えております。

## **座 長**

そのほか、ご意見、ご質問等ございますか。

[質疑なし]

## **座 長**

それでは、次の議題に移りたいと思います。

**(6) 平成29年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応について**

**(7) その他**

**座 長**

それでは、ただいまの報告も含めまして、これまでの説明につきまして何かご意見、ご質問等ございますか。

**B 委員**

関係団体の皆さん方からいろいろと意見聴取などをされて、ここに一覧として載っているわけではありますが、やはり連携排砂、あるいはダムからの大量の堆積物の土砂の流出ということであれば、全く下流域に影響がないということはありませんので、やはり皆さんの意見というものを素直に聞いていただくことが大事だろうと思いますし、今回、私どもにも説明をされた資料について、それぞれ内水面、あるいは海面、そして農業団体というようなところへの提供あるいは説明というものはしっかり行っていただきたいというふうに思っております。

同じような要望だから同じような回答でいいということではなくて、いろんな調査をせっかくしているわけありますので、なるべく丁寧をお願いをするということと、先ほど(A委員)もおっしゃったように、もっとわかりやすい形で資料提供などを行っていただければいいのではないかなというふうに思っております。

よろしくお願いします。

**座 長**

事務局、よろしいでしょうか。

[事務局うなづく]

**A 委員**

宇奈月ダム流入SS成分の流下方策の話、もう一度確認しておきますが、排砂、通砂の実施体制に位置づけをしておくのか、そしてその連絡体制は、今の排砂実施期間3カ月のようなきちとした連絡も含めて行うのか、その辺をしっかりと位置づけておかれたほうがいいのかというふうに思いますので、その点またよろしくお願いします。

**事務局**

全くもってそのとおりかと思っておりますので、体制に組み込む等、連絡体制も含めて何らか

の対応を考えていきたいと思えます。

## 座 長

そのほか、ご意見、ご質問等ございますか。

## C委員

先ほど確認させていただきましたが、昨年、宇奈月ダムから20万 $m^3$ 出たと。先ほどの話ですと、今年も10万 $m^3$ が一部出てくる可能性があるということですので、今の要望の中にもありましたけども、宇奈月ダムからの流出というのが加わった形で出てきているということで、国交省さんにおかれましても、漁協ですとか、それから漁業者の皆さんと十分協議されて、漁業振興策等について、しっかりと早急に協議を進めていただきたいということが1つございます。

それから、宇奈月ダム流入SS成分の流下方策については、効果についてはこれからやってみるということですので、今すぐ効果が出るのかどうかよくわからないところがありますので、今後、環境改善策の検討をお願いしたいというふうに思います。

いずれにしても、極力環境、漁業に与える影響が少なくなるような方向を検討していただいて、できるだけ自然に近い形で土砂の排砂をしていただけるように、しっかり取り組んでいただきたいというのが要望でございます。お願いします。

## 座 長

よろしいですか。

そのほか、ご意見、ご質問等ございますか。

[質疑なし]

## 座 長

それでは、ご意見、ご質問等ないようでございますので、最後に取りまとめをさせていただきます。

まず、議題1の平成28年度追加の環境調査結果につきましては、珪藻類細胞密度に閾値を設けることで再現性の高い関係式が得られました。

また、水温、日射量、栄養塩等が生物相の変化に影響しているのではないかと考えた考察について説明がありました。

議題2の平成29年度の連携排砂計画については、今年度の目標排砂量が約9万 $m^3$ 、想定変動範囲が1万 $m^3$ から17万 $m^3$ という説明がございました。

宇奈月ダムのSS成分流下方策につきましては、対外的に説明しやすいようネーミング



を検討するようにとのご意見がありまして、事務局でその内容について検討していくこととなりました。

また、連絡体制等についても、より位置づけを明確化にというご意見もございまして、これについても検討していくこととなりました。

さらには、影響につきまして、特にSS成分流下方策につきましては、引き続き環境への影響を少なくするよう、検討を進めることとなりました。

次に、議題3の平成29年度連携排砂に伴う環境調査計画につきましては、夜間及び荒天時の調査が困難な場合に備え、海域において自動観測項目の追加等を実施のほか、河川においては、付着藻類相の変化要因を確認するため、追加調査を実施するといった説明がありました。

議題4の平成29年度大粒径土砂の移動状況調査については、昨年度調査の課題を踏まえ、移動実態をより把握できるような取り組みについて説明がありました。

議題5については、第46回黒部川ダム排砂評価委員会での評価について報告がありました。

議題6については、連携排砂に関する関係団体からの意見について報告がありました。

これら関係団体の方々に対しまして、皆様の意見をよく聞いて、資料もわかりやすい資料を用いて、より丁寧な説明を今後行っていくようご意見もございまして、事務局からもそれに努めていくこととなりました。

全般につきまして、内容について幾つか質問もございまして、事務局のほうからも回答もございました。

以上が、まとめということでございます。

これらのまとめを踏まえまして、実施主体である国土交通省、関西電力において、平成29年度の連携排砂等を適切に実施するというところでよろしいでしょうか。異論はございませんでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

## 座 長

異論はなく了承いただきましたので、平成29年度連携排砂計画、平成29年度連携排砂計画に伴う環境調査計画については、了承され、連携排砂実施にあたっては、今回出された意見を踏まえて適切に実施するということをまとめとしまして、本日の議事を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。

それでは、司会に進行役をお返しします。

## **閉 会**

### **司 会**

長時間にわたりまして熱心なご審議、まことにありがとうございました。

以上をもちまして、第42回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

どうもありがとうございました。